



Allied Architects

# 2024年12月期 第3四半期 決算説明資料

アライドアーキテクト株式会社  
(東証グロース市場：6081)

2024年11月14日



持続的な成長軌道への回復に向けた基盤づくりとして、抜本的な構造改革を実施中。

3Q累計業績は期初計画を下回る推移も、2Q以降は営業赤字幅が縮小

売上高

3Q累計  
**25.79** 億円

前年同期比△16.3%

1Q  
**7.99** 億円

2Q  
**9.06** 億円

3Q  
**8.73** 億円

営業損益

3Q累計  
△**3.56** 億円

前年同期は1.97億円の利益

1Q  
△**2.57** 億円

2Q  
△**0.53** 億円

3Q  
△**0.45** 億円

Topics

- 1 国内事業の事業統合は順調に進捗しているが、統合効果が出るのは4Q以降になる見込み。
- 2 海外事業はクロスバウンドが引き続きインバウンド、アウトバウンド共に需要旺盛で堅調。SuperFactionは、経営資源の集中と選択を図るため解散・清算を決定。
- 3 通期連結業績予想を修正。(24年11月14日公表)

1	グループ方針・業績予想	P.4
2	2024年12月期上期業績	P.11
3	各事業の状況	P.18
4	グループ方針・業績予想	P.25

# グループ方針

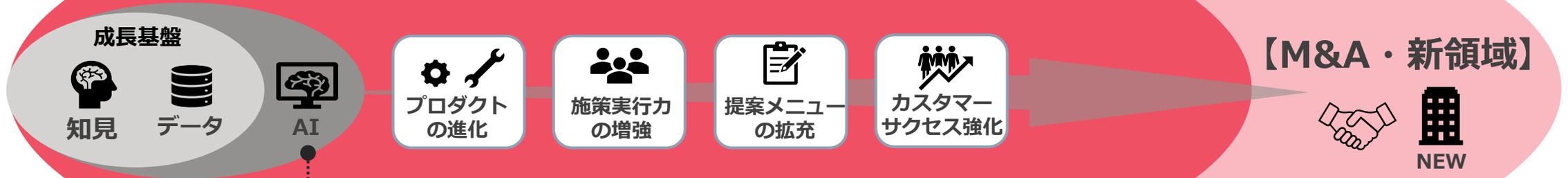
A large, stylized graphic consisting of two overlapping, tilted rectangular shapes. The front shape is a solid red color and contains a large white number '1' in the center. The back shape is a lighter, semi-transparent red color and is slightly offset to the left and top.

中期テーマ

# マーケティングDX支援企業として 圧倒的ポジションの確立

マーケティングDX支援事業のオーガニック成長に加え、  
M&A・新領域の開拓による業容拡大を模索し、非連続成長を実現する

## 【オーガニック成長】



AI導入によるプロダクト進化  
・業務効率化を2023年に推進。  
今後も着実に実施していく

### M&A方針①

既存事業とシナジーの高い企業の獲得を検討

### M&A方針②

新領域の事業性質を持つ企業の獲得を検討

期初段階

国内3事業の加速と海外事業の再構築

2024年  
新方針

事業体制の再編により  
グループ全体を構造改革

【業績開示に関する留意点】

事業構造改革後に新たな事業体に合わせて戦略・KPIを再度検討予定のため、  
期初に開示した各事業の戦略方針は見直しとさせていただきます。

上期は下期以降の営業利益改善に向けて、事業構造改革費用の投資およびコスト構造の見直しを行うため、  
当面各事業に関しては売上高のみを開示し、その他KPIは今後開示の方向で検討してまいります。

今期は事業体制の再編により、グループ全体で事業構造改革に取り組む。  
期初の黒字化計画を見直し、抜本的な構造改革の徹底推進に方針を転換

2024年  
下期戦略

【従前】  
事業ポートフォリオの再構築により  
通期連結黒字化を目指す

【NEW】  
『選択と集中』によって事業ポートフォリオをスリム化  
～抜本的な構造改革を遂行し利益体質の経営基盤を取り戻す～

国内事業

- ✓ プロダクト事業（旧国内SaaS事業）とソリューション事業を統合
- ✓ 販促+制作における包括的なデジタルマーケティング支援を目指す
- ✓ 「Letro」を主軸にした新規顧客の開拓、既存顧客の深耕を強化
- ✓ AIを活用したデータ分析から提供価値を拡大

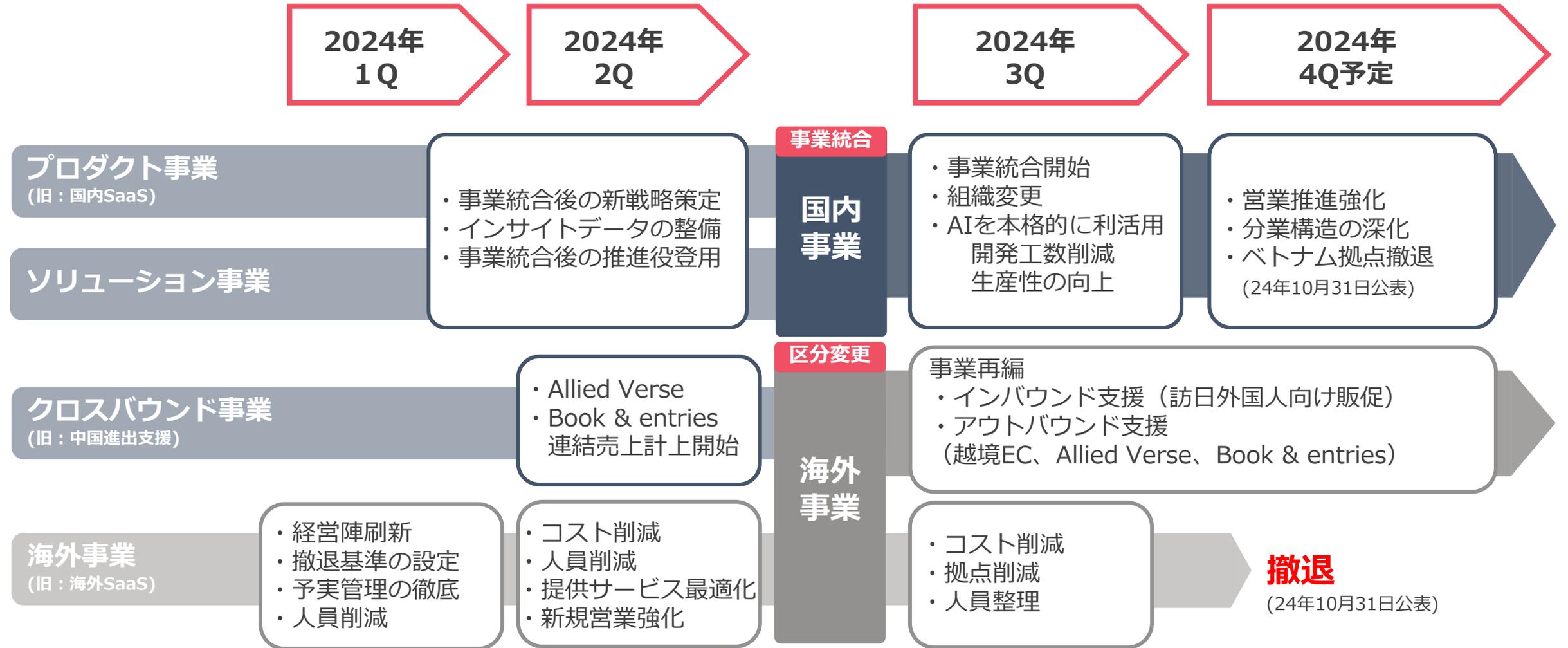
海外事業



- ✓ ゲーム業界の広告予算縮小で業績悪化
- ✓ 経営体制刷新も業績回復に至らず
- ✓ SuperFactionの解散・清算を決定

10/31付適時開示

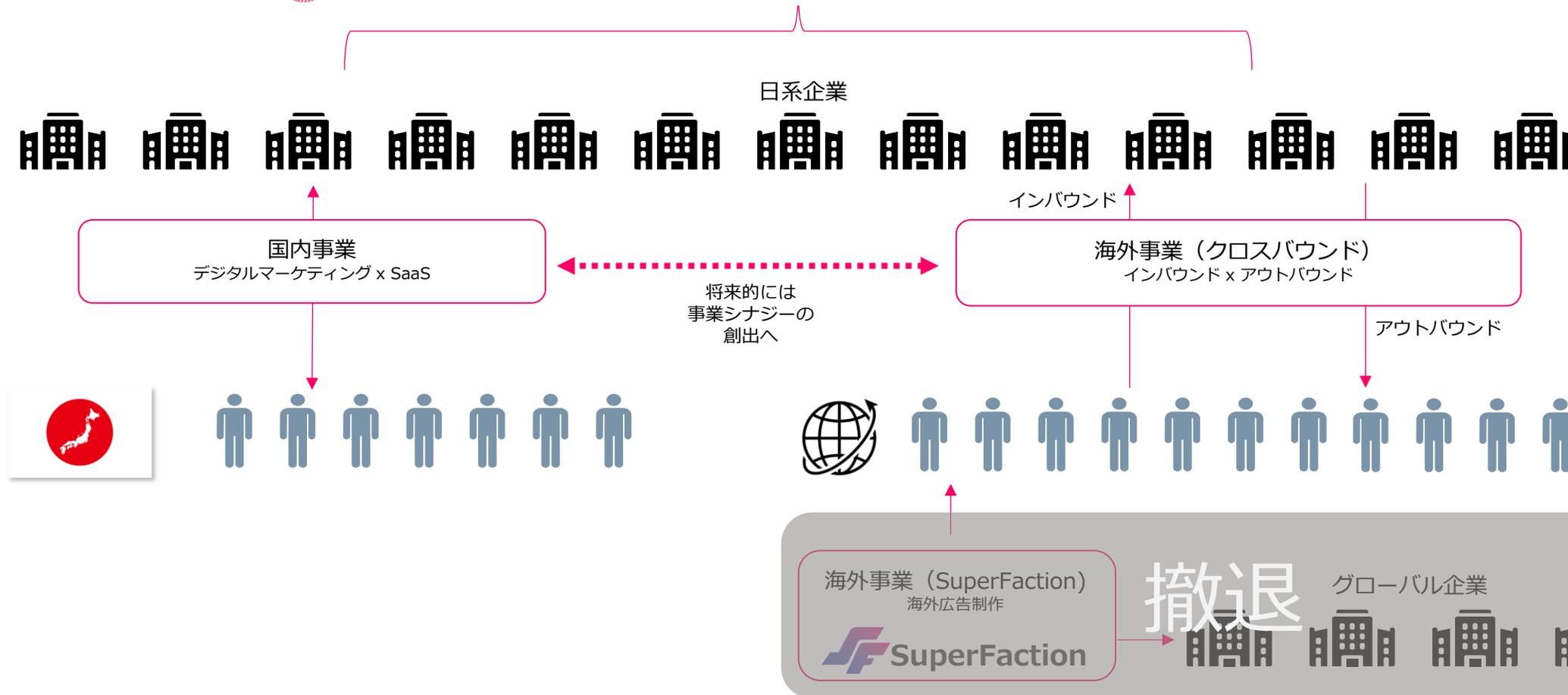
今期取り組んだ構造改革で収益改善に向けた事業構造の基盤を整備。  
利益体質への改善に向けて、来期以降は収益構造の強化に着手する予定



今期の事業構造改革により、海外事業は当面クロスバウンドに注力。  
企業の国内マーケティングに加えグローバル展開も支援し、中長期的な成長を目指す



**ミッション：世界中の人と企業の創造がめぐる社会へ**



業績の動向等を踏まえ、通期連結業績予想を以下の通り修正。

売上高は上期の計画未達分、営業利益はSuperFactionの事業撤退が大きく影響

	2023年12月期 実績 (A)	2024年12月期 通期予想(B)	2024年12月期 通期予想 11月修正値(C)	前期比 (C/A)	修正率 (C/B)
		想定為替レート：1ドル=140円	想定為替レート：1ドル=140円		
(単位：百万円)					
売上高	4,144	4,000	3,400	△18.0%	△15.0%
営業損益	258	250	△430	—	—
経常損益	314 <sup>※1</sup>	250	△470	—	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	△146 <sup>※2</sup>	50 <sup>※3</sup>	— <sup>※4</sup>	—	—

※1 為替差益として98百万円、持分法による投資損失32百万円を計上

※2 投資有価証券評価損47百万円、投資有価証券売却損72百万円、貸倒引当金繰入額92百万円を特別損失として計上

※3 特別損益が発生しなかった場合の見込み金額

※4 SuperFactionはシンガポールにおいて清算手続（Winding Up by Court）を進めているため、現時点では精緻な費用算出が不可能であるため非開示。

# 事業概要

A large, stylized graphic consisting of two overlapping red parallelogram shapes. The front shape is a solid red parallelogram containing a large white number '2'. The back shape is a lighter red, semi-transparent parallelogram that is slightly offset to the left and top.



# Allied Architects

アライドアーキテクトという社名には「企画者、創造者（アーキテクト）」の「結びつき（アライド）」という言葉通り、「ただ与えられた仕事をこなすのではなく常に自分の頭で考え、古い部分は破壊し、創造し続ける」そういった人たちの集まりでありたい、という想いが込められています。



会社名	アライドアーキテクト株式会社 Allied Architects, Inc.
代表者	代表取締役社長 CEO 中村 壮秀
事業内容	マーケティングDX支援事業
所在地	東京都渋谷区恵比寿1-19-15 ウノサワ東急ビル4階
設立	2005年8月30日
証券コード	6081（東証グロース）



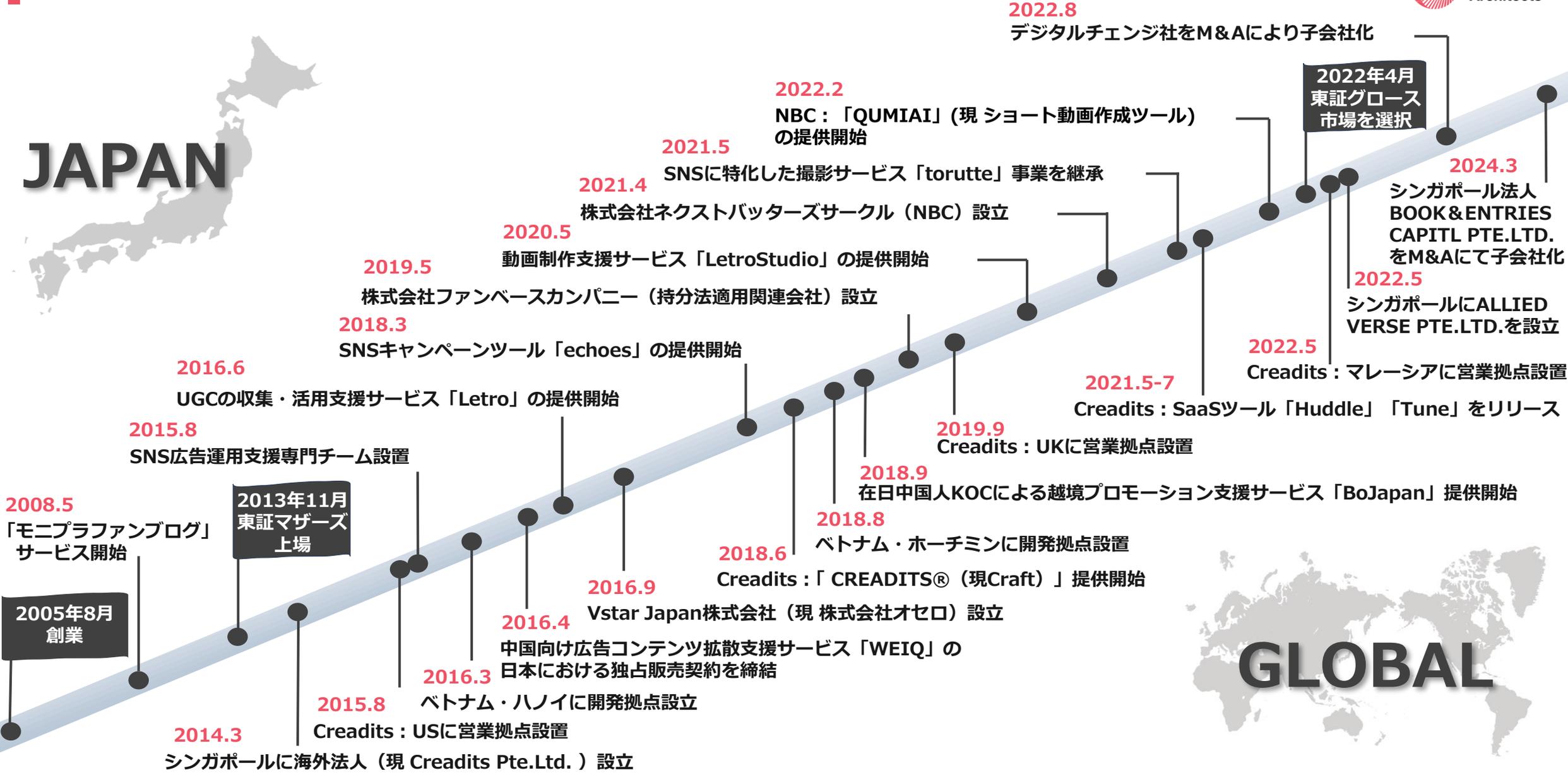
- 拠点数：8（日本1、海外7）
- グループ企業数：11社

（記載データはすべて2024年9月末時点）

# JAPAN



# GLOBAL



# 世界中の人と企業の創造がめぐる社会へ。

作る人、売る人、買う人、使う人。

それぞれが分断されていた社会で、

私たちは、世界中の人と企業をつないできました。



## Allied Architects

これからは、そのつながりの先で、企業の創造が人々の創造を生み出し、それがまた企業へかえる「循環」が自然な形になっていくと考えます。

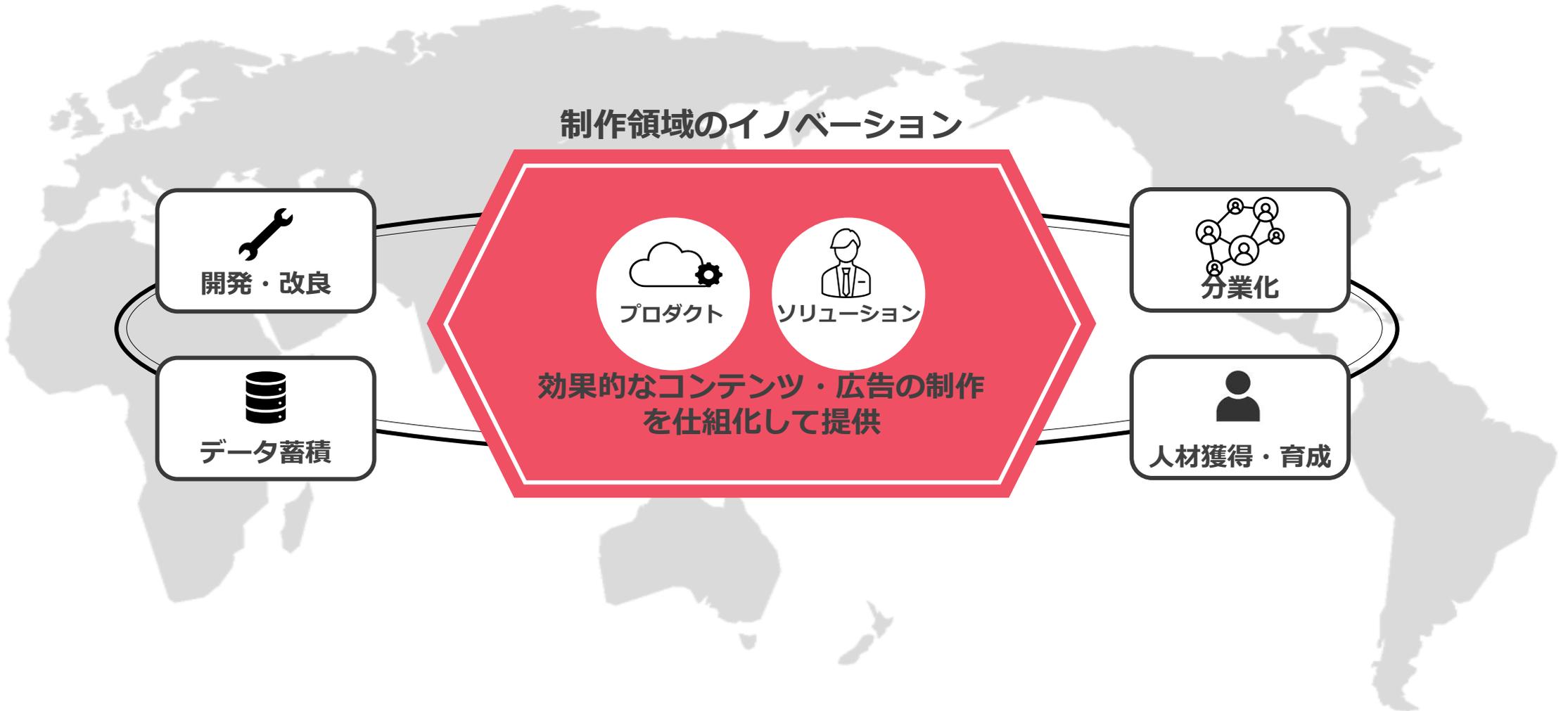
つながり、そして、めぐりへ。

アライドアーキテクト・グループは人々の声や誰もが持つ創造力を

企業の価値へと変換し、循環させることで

人と企業と社会が、共に豊かになる世界を築きます。

# マーケティングDXにおける『制作領域のイノベーション』を 国内・海外で仕組化して提供



当社を取り巻く外部環境の変化は国内に留まらない世界的な潮流となっており、グローバル展開にはマーケティングDXがますます重要な成長因子となっている

政治的要因  
P

- ・個人情報保護法改正によるデジタル広告規制の強化
- ・労働人口減少によるDX推進
- ・国内消費の縮小スパイラルによるクロスバウンド支援

経済的要因  
E

- ・世界的インフレによる物価高
- ・円安による為替差益の増加
- ・グローバルにおける富裕層の増加

社会的要因  
S

- ・少子高齢化による労働人口の減少
- ・デジタル人材の不足
- ・アフターコロナによる訪日観光客の急増

技術的要因  
T

- ・ネットインフラによる世界の縮小化
- ・生成AIによる言語障壁の低減
- ・情報の即時性・偏在性

当社におけるビジネスチャンス

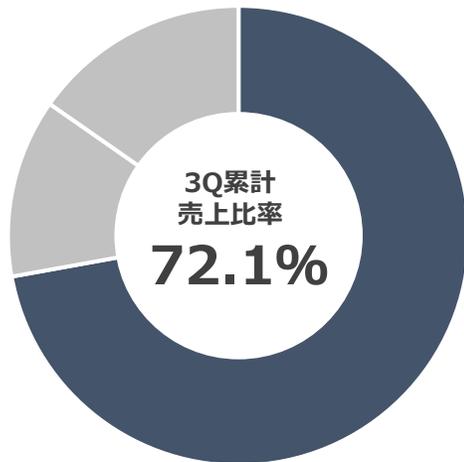
- 💡 DXの推進による生産性向上
- 💡 生活者データ、クリエイティブの価値向上
- 💡 海外市場に挑戦する企業の増加

# 顧客企業の様々なマーケティング課題を一気通貫で解決する事業ラインナップ

## セグメント：マーケティングDX支援事業

### 国内事業

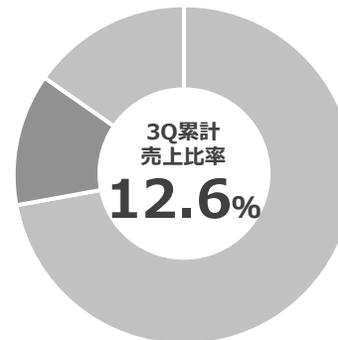
データとクリエイティブの力で  
コミュニケーションを進化させる  
マーケティングDX支援



### 海外事業

#### クロスバウンド事業

独自のインフルエンサーネット  
ワークを活用したインバウンド支援  
および中国向け越境EC支援

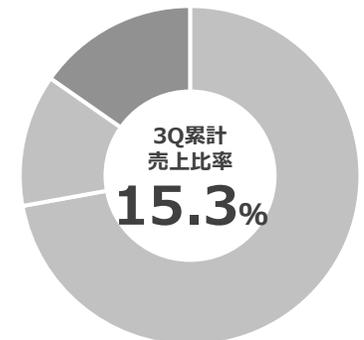


#### 海外広告制作事業 (旧海外SaaS事業)

グローバルなクリエイター  
ネットワークによる  
広告クリエイティブの提供



※2024年7月にCreditsから名称変更



# 2024年12月期3Q業績



3

国内事業の構造改革とSuperFaction社の不振により、売上高・営業利益とも計画未達。  
事業統合の効果が収益的に顕在化するまで時間を要するが、足元の営業状況は改善傾向

(百万円)	2023年12月期 3Q累計実績	2024年12月期 3Q累計実績	前年同期比
	為替レート：1ドル=138.24円	為替レート：1ドル=151.45円	
売上高	3,080	2,579	△16.3%
営業損益	197	△356	—
営業利益率	6.4%	—	—
経常損益 <sup>※1</sup>	350 <sup>※2</sup>	△402 <sup>※3</sup>	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	91	△471	—

※1 当社単体で約10百万ドル（24年9月末）の外貨建て資産を有していることに伴い、為替相場の変動により為替差損益が発生

※2 為替差益として181百万円、持分法による投資損失△25百万円を計上

※3 為替差損として9百万円、持分法による投資損失△24百万円を計上

国内事業は組織改編・営業フロー見直し等、事業統合の過渡期により収益が一時的に低下。  
SuperFaction社も新規大型案件の失注で大幅未達のため、売上高は減収だが営業損益は改善

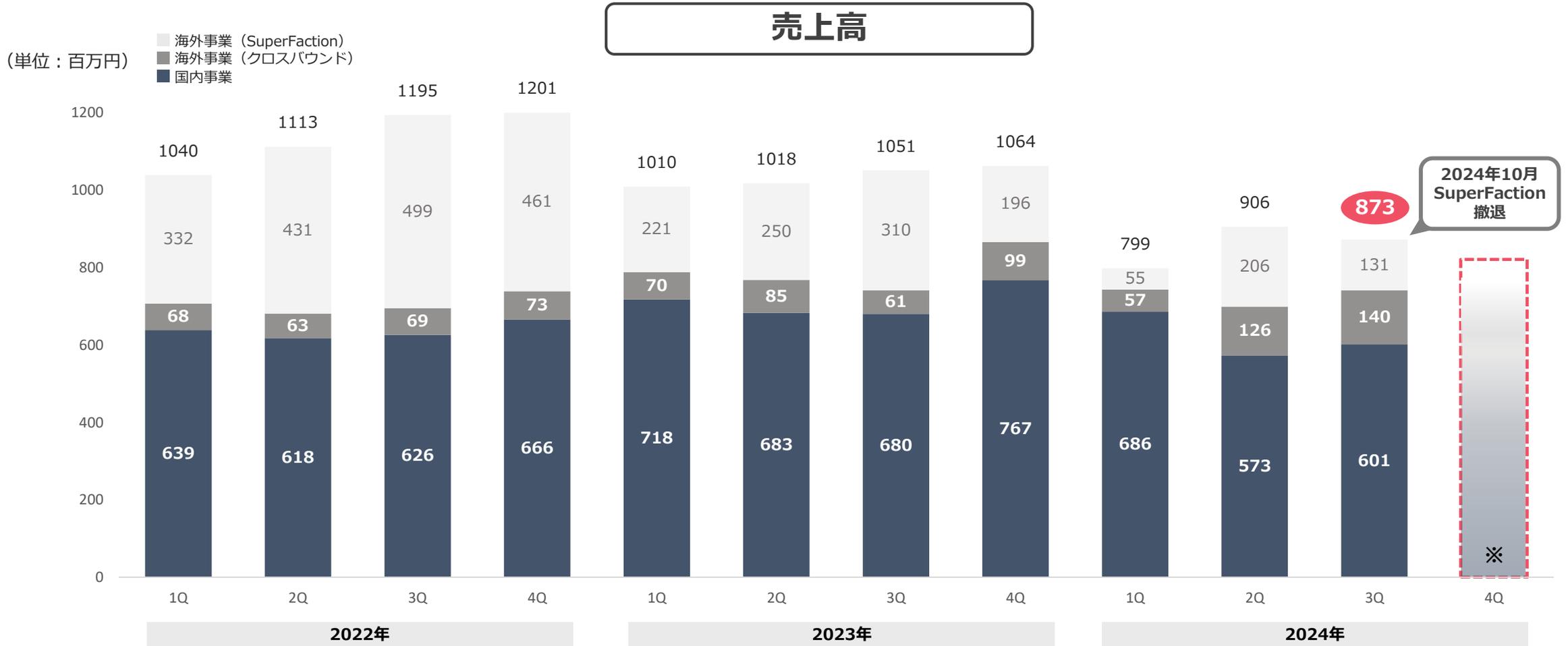
(百万円)	2023年12月期3Q	2024年12月期3Q	前年同期比
	為替レート：1ドル=144.63円	為替レート：1ドル=149.71円	
売上高	1,051	873	△16.9%
営業損益	89	△45	—
営業利益率	8.5%	—	—
経常損益 <sup>※1</sup>	126 <sup>※2</sup>	△281 <sup>※3</sup>	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	67	△241	—

※1 当社単体で約10百万ドル（24年9月末）の外貨建て資産を有していることに伴い、為替相場の変動により為替差損益が発生

※2 為替差益として50百万円、持分法による投資損失△10百万円を計上

※3 為替差損として9百万円、持分法による投資損失△4百万円を計上

事業統合により組織改編・営業フロー見直しで過渡期となった国内事業の売上高は微増だが、4Q以降は国内事業と海外事業（クロスバウンド）を主軸に安定的な収益基盤の確立を目指す

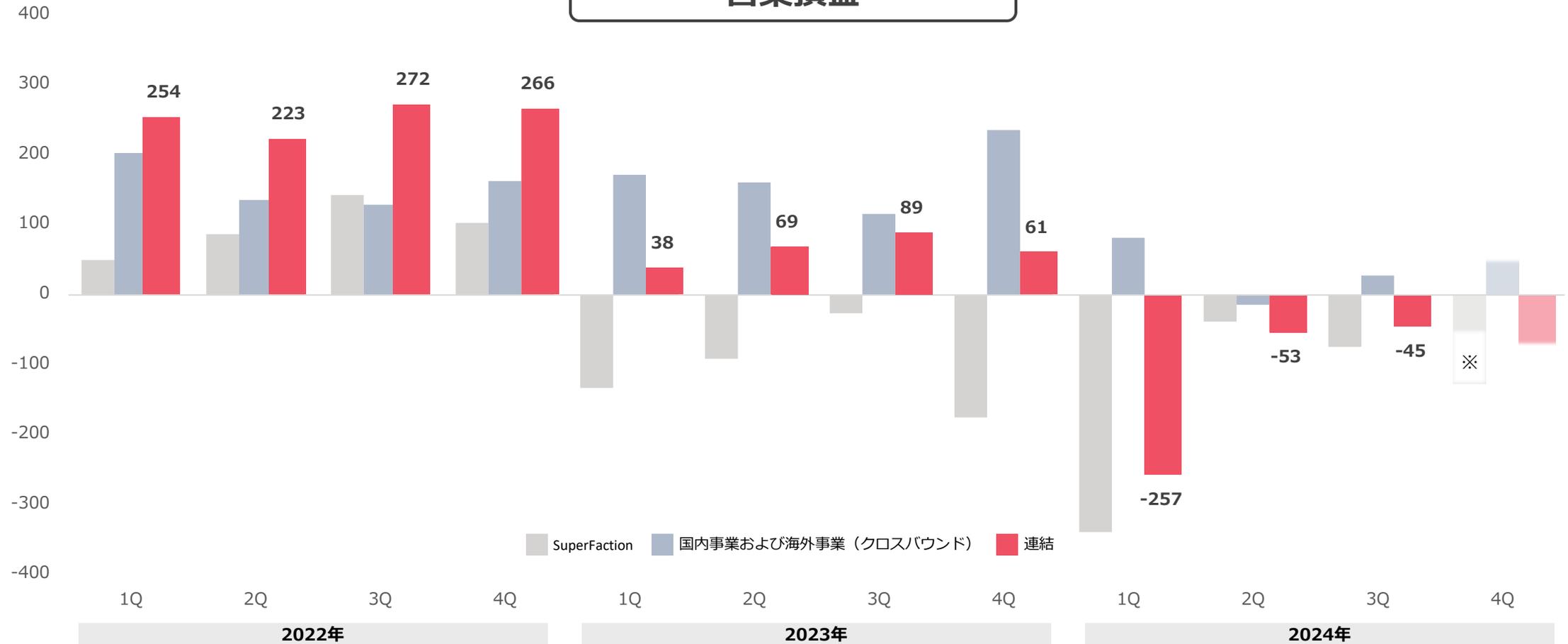


※4Q予想は11/14発表の修正業績から3Q実績を差し引いたもの

## グループ全体で事業構造改革を推進した結果、 SuperFaction以外の営業損益は3Qから回復基調へ

(単位：百万円)

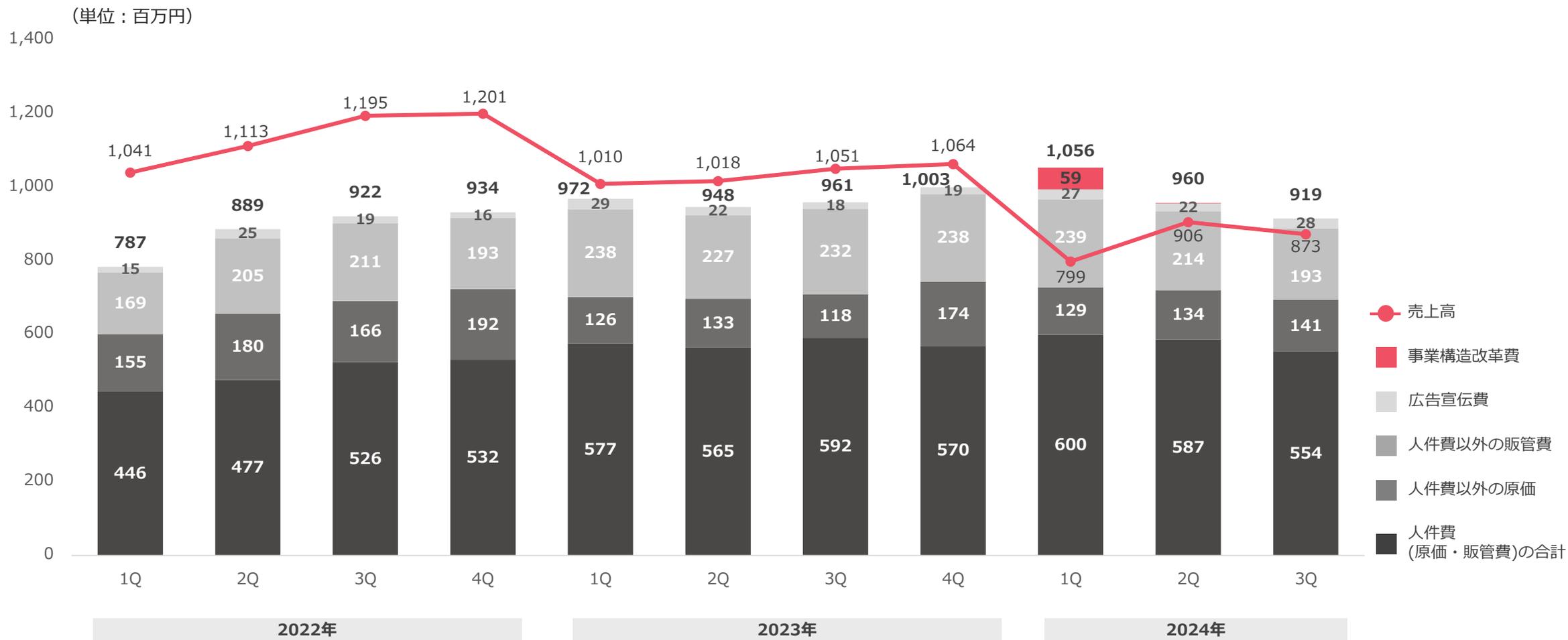
### 営業損益



※4Q予想は11/14発表の修正業績から3Q実績を差し引いたもの。SuperFaction予想値には清算関連費用を含む

3Qでは、国内事業の統合により重複していた無駄を省いたことで、人件費以外の販管費を削減。

AIの積極活用による業務効率化で外部への業務委託費が減少し、人件費も低下



負債圧縮により自己資本比率が改善。引き続き堅実な財務運営を維持

2024年2Q末

(単位：百万円)

資産	借入金 708	負債/純資産
	その他負債 804	
	純資産 2,715	
現預金 2,334		
その他流動資産 1,036		
固定資産 856		

自己資本比率：61.9%

2024年3Q末

(単位：百万円)

資産	借入金 659	負債/純資産
	その他負債 703	
	純資産 2,807	
現預金 2,077		
その他流動資産 1,094		
固定資産 998		

自己資本比率：64.5%

# 各事業の状況



4



# 国内事業

2024年7月に事業統合を実施し、3Qは過渡期の位置付けも、来期以降の業績成長に向けて  
組織体制の変更・積極的なAI活用の開始・営業フローの見直しなどを実施

主な統合メリット

ツールを  
磨き上げてきた  
プロダクト事業



デジタル人材  
中心の  
プロダクト事業

より包括的なマーケティング支援が可能に



プロダクト  
の進化



施策実行力  
の増強



提案メニュー  
の拡充



カスタマー  
サクセス強化

事業成長のポイント強化+重複コストを削減

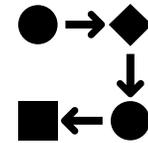
統合後の主な取り組み



組織体制の変更

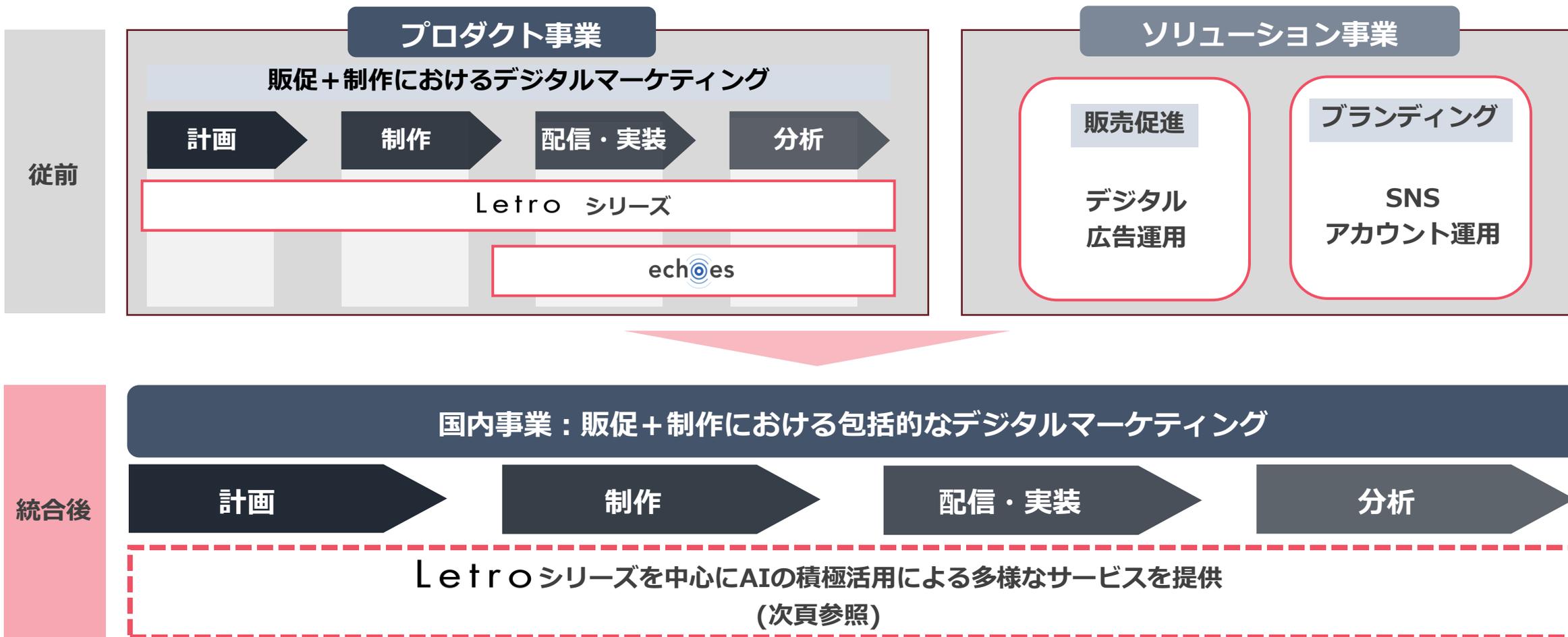


積極的なAI活用の開始



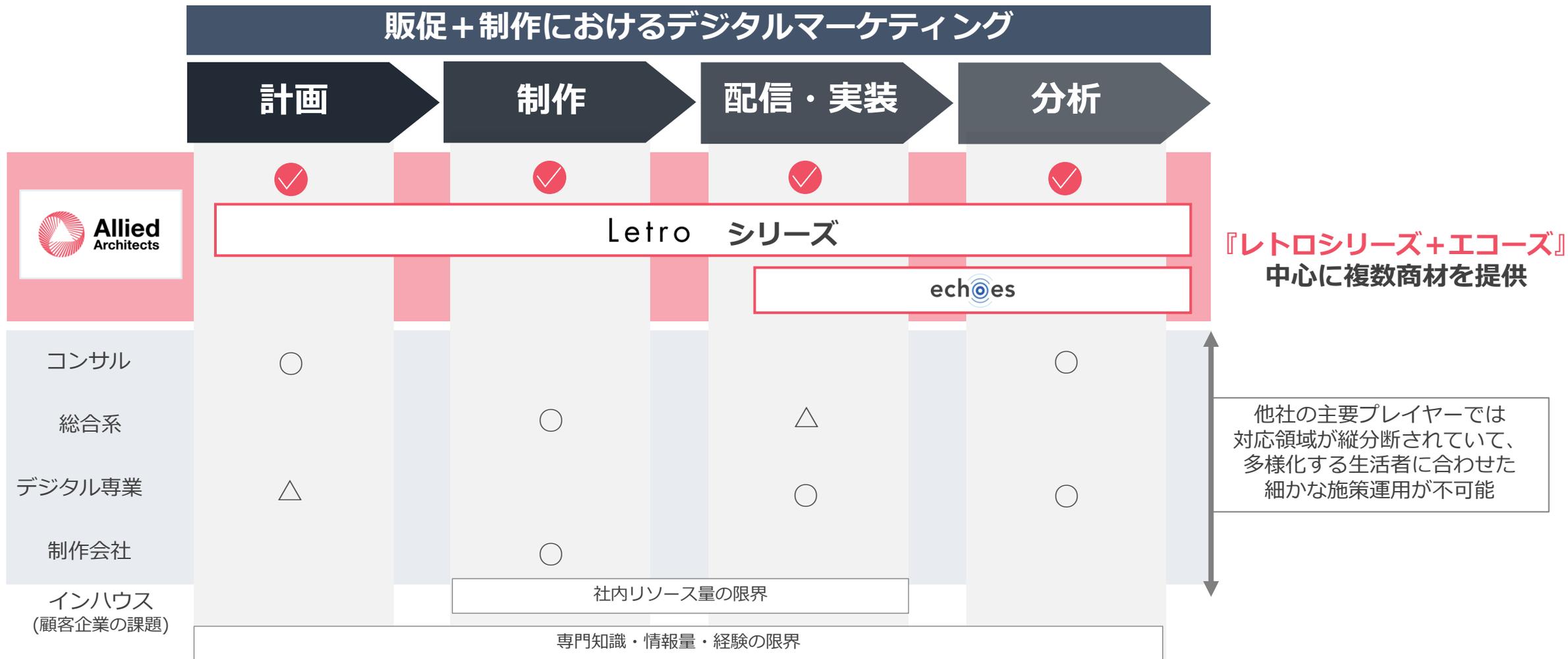
営業フローの見直し

プロダクト事業とソリューション事業のサービスを組み合わせることで  
他社では分断されているマーケティング施策を、より包括的なワンストップ支援の提供が可能に

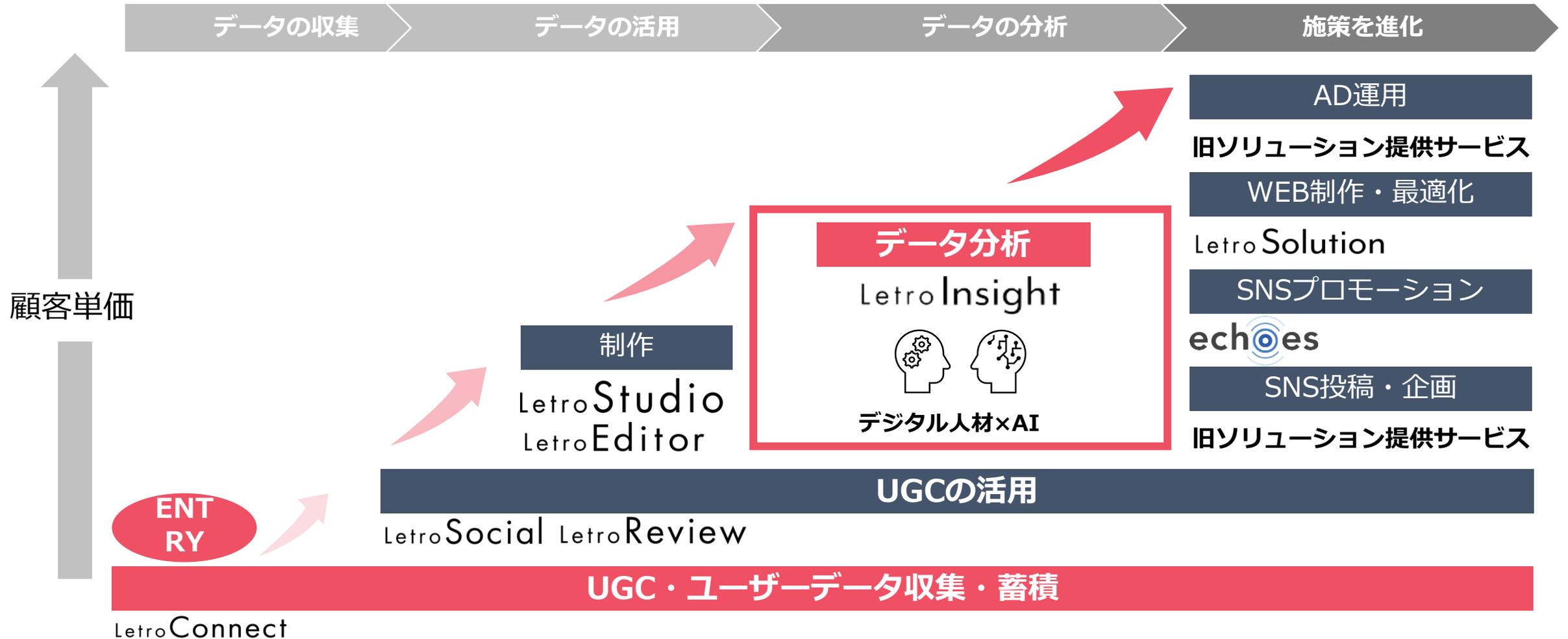


## 従来は分断されていたマーケティング施策の実行を マルチプロダクトの提供でワンストップ可能に

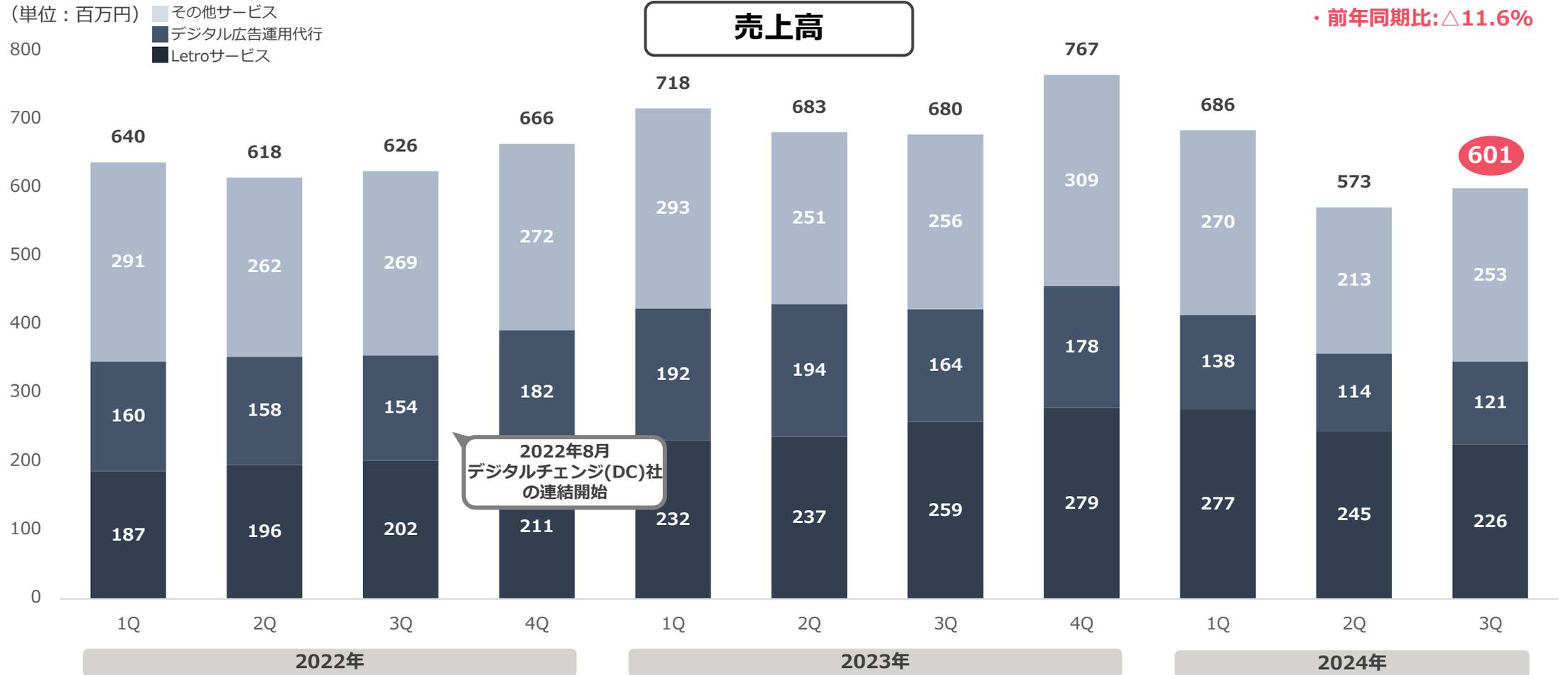
### 販促 + 制作におけるデジタルマーケティング



Letroシリーズにエントリー商材を新規投入、加えてユーザーデータの収集・蓄積を強化。  
AIの積極活用でインサイトデータの分析を高度化して提案の幅を広げ、提供価値を拡大



「Letro」サービスは組織再編の一時的な影響で微減も、新体制構築は順調。  
デジタル広告運用は2Qで底打ち、その他サービス（SNS運用）が対応領域拡大により回復基調

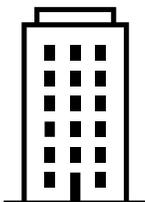




# 海外事業

# 中国SNSのアカウント運用とインフルエンサーの活用により、 中華圏を対象とした越境ECプロモーション支援とインバウンドプロモーション支援を展開

【日本企業】



化粧品、  
食品メーカー等

中国SNS  
アカウント運用



Weibo



WeChat



RED



Douyin



bilibili

主力

インフルエンサーによる  
動画やUGCの生成・拡散

当社の独自独占サービス

UGC生成



インフルエンサー  
キャスティング

OTHELL●  
●オセロ○



クリエイターの中華圏活動支援

OTHELL●  
●オセロ○

【中華圏の消費者】



中華圏インバウンド  
プロモーション支援

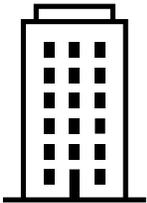
中華圏で知名度を高めたい  
インフルエンサー

中華圏での影響力向上

2024年12月期は、新規事業として海外進出支援（アウトバウンド）を開始。

2024年2Qから連結売上計上開始

【日系企業】



**NEW 海外進出支援**

シンガポールに子会社を持つ強みを活かし、  
日系企業向けに  
『シンガポール進出支援』を開始



(海外連結会社)

2022年5月にシンガポールに  
設立した子会社



(海外連結会社)

2024年3月にシンガポールで  
M&Aした子会社

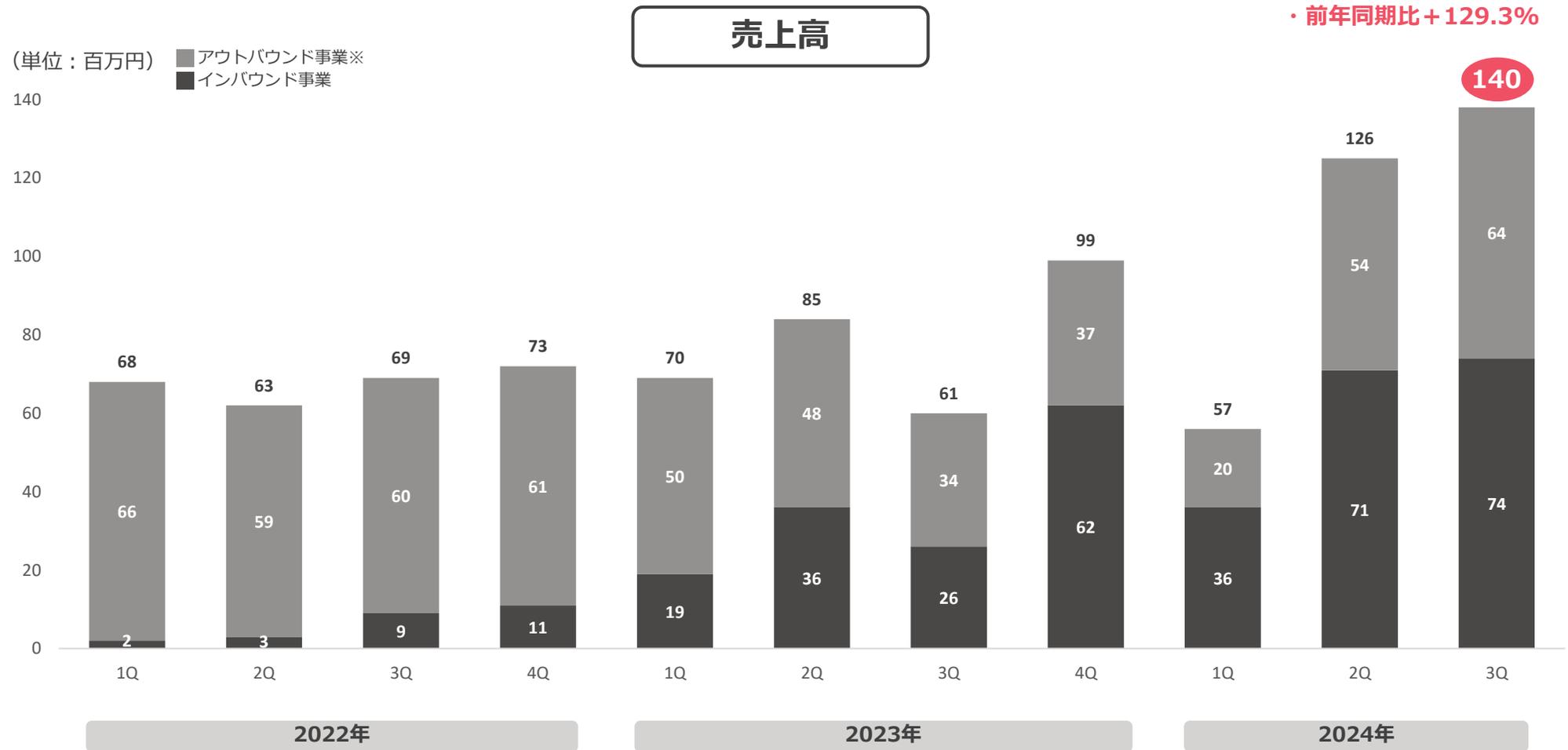
2024年2Q～連結売上計上開始

【シンガポール進出】



(2024年連結通期業績予想は、期初予想・11月修正予想ともに当新規事業の売上高見込みを含む)

3Qは中国EC最大の商戦期である「独身の日(11月11日)」の事前プロモーションが好調で売上増。  
 インバウンド・アウトバウンド共に引き続き旺盛な需要を取込み、四半期過去最高売上を更新



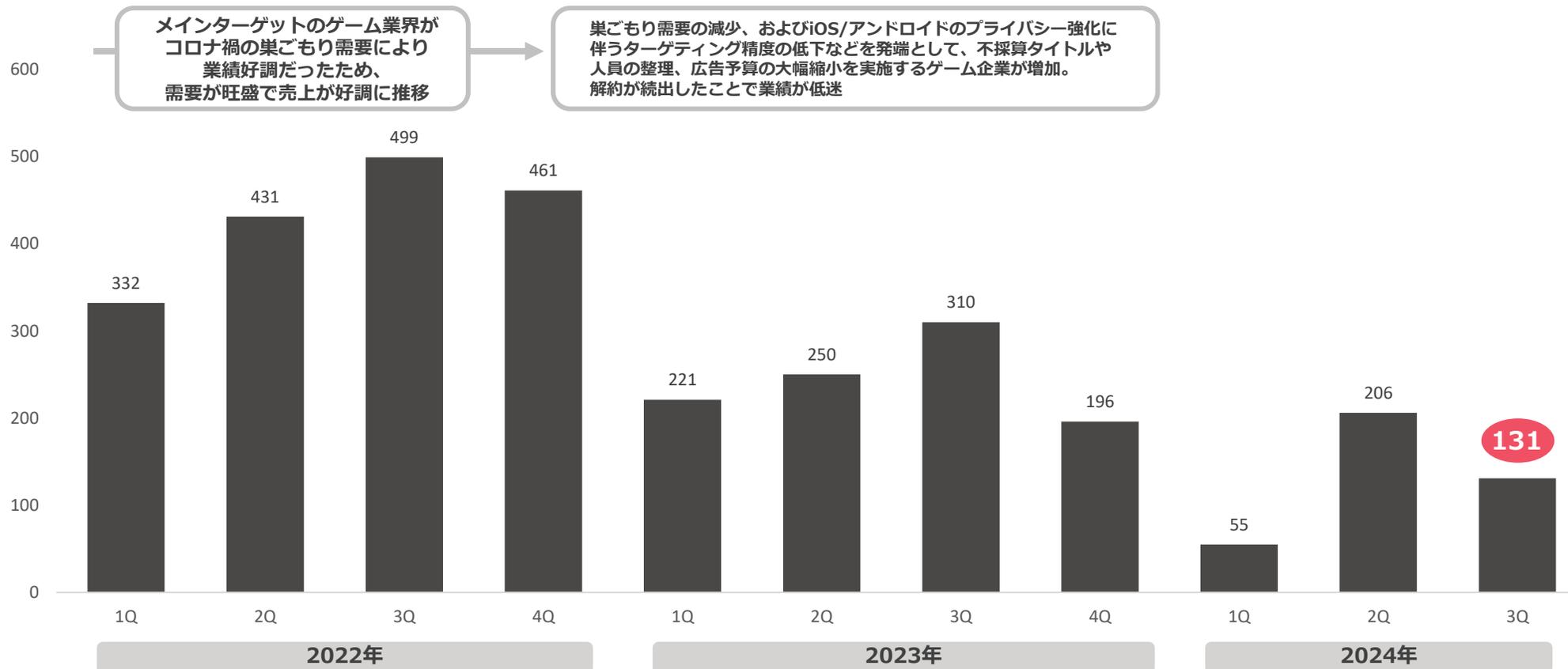
※アウトバウンド事業：越境EC支援（クリエイター支援含む）、海外進出支援のAllied VerseおよびBook & entries

## 3Qも引き続きビジネスモデルの再構築を試み、収益の改善に努めたが、営業注力していた新規大型案件の失注が響き、業績回復に至らず撤退を判断

(単位：百万円)

### 売上高

・前年同期比△57.6%



※2024年3Qでの為替レート：1ドル=149.55円



# Allied Architects

【IRに関するお問い合わせ先】  
アライドアーキテクトIR担当  
ir@aainc.co.jp

## 免責事項

この資料は、アライドアーキテクト株式会社（以下、当社）の現状を理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。

これらは、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。

また、本資料に掲載・引用しているロゴ、会社名、商品名等は、各社の登録商法または商標です。